

# 失意の日のために

柴田康弘

朝のあいさつのように

湖面に

波紋を残し

かなしみの残像が

雲を掠<sup>かす</sup>めていく

言い知れぬものを伝えようとして

影が

もうひとつの影を追い越し

地平のひかりさえも

ひどく崩壊している

まなざしの陥穽よ

真昼のドアの向こうで

秋の星雲が渦巻き

闇のなかで

紅葉もみぢが  
つめたく  
燃焼する